様式２

令和5年度　自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 （学校ビジョン）	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する

今年度の 重点目標	職業人としての基礎的な力の育成
	地域社会とつながりながら生きる力の育成
	働きやすい職場、一人一人が成長でき組織づくり

年度当初					評価結果　（９）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての基礎的な力の育成	○授業改善 ～「協働性」を高める～	○計画的な教科グループでの話し合いや授業公開、および授業実践シートの作成等を行うことで、教職員の授業改善への意識が高まってきた。 ○近年の人事異動により様々なキャリアの教職員が在籍しており、教職員の専門性の技術の伝達が求められる。	○生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研究会を設定し、授業展開や重点事項等について教職員で共有する。 ○外部講師を招聘し、協働性を高めるための手立てや活動の工夫についての研修会を行う。 ○授業研究会を行い、授業を振り返り、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。（就労準備性チェックリストの実施）	○６月研究会では、生徒の「考える」を意識した授業づくりに向けて、グループでの重点事項の検討、および確認をした。 ○夏季休業中に外部講師を招聘し、協働性を高めるための手立てや活動の工夫についての全体研修会を実施した。グループ研究会では、今後の具体的な授業改善の方策について検討を行った。	A	○今年度の研究推進の計画に沿って、各研究グループで確認した重点事項や話し合ったことをもとに授業実践の積み上げを行っていく。１２月までに研究グループごとに授業研究を行い、グループの協働性について振り返りを行う。 ○１１、１２月に全生徒を対象に就労準備性チェックリストを実施し、１月にチェックリストの分析を行い、検証を行う。
	○職業教育・進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○専門教科の中心であった教職員の多くが異動したことで、専門教科担当の教職員の専門性や指導力、就労に対する意識は様々である。	○専門教科の各コースの教職員が「一般就労」という目標を持ち、必要な知識や技術を身につけ、生徒の指導にあたっている。	○指導方針や指導方法等について共有できるよう工夫したコース会を実施する。 ○研究・研修担当と連携した授業改善に取り組んだり、進路部と情報共有して研修を行ったりする。	○コース会等を活用して指導方針や指導内容について確認する時間を設定し、各コースで共通理解して指導に当たっている。教職員間の技術伝達のため、空き時間を利用して他学年の授業を参観し合う姿が見られる。 ○研究・研修担当主催の研修会に参加し、それぞれのコースでの授業実践について話し合いを行い、授業研究に取り組んでいる。「一般就労」についての研修の必要性は感じているが、未実施である。	B	○引き続き学科内、コース内での情報共有を行う。コースチーフを中心に各コースの取り組みや課題について定期的に確認を行い、課題の改善策について検討していく。空き時間を利用した教職員間の担当コースの授業参観を継続、可能であれば他コースの参観を行う。 ○研究・研修担当や進路部と連携した研修会を実施したり、情報交換を行ったりする。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○（１年生）自分の良さと課題を理解している。 ○（２年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○（３年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団や学科部と進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団や学科の教科担当者と情報交換をして生徒の希望や適性に合った企業の選定ができている。 ○生徒、職員に対して授業や研修で情報提供を行っており、意識の向上につながっている。	B	○現場実習と授業のつながりを意識して、引き続き学科の教科担当者と進路部の連携に努める。 ○生徒、職員の進路指導に対する意識を更に向上させるために、引き続き授業や研修で情報提供を行う。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○夜、スマホを利用することによって、就寝時刻が遅くなる生徒がいる。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる。	○生活の自己管理ができ、睡眠時間の確保ができている。	○睡眠等に関係するアンケートをとり、指導活用していく。 ○「我が家のルール」を活用したり、個人懇談等を通じたりしながら保護者と情報共有をして指導していく。	○「夏季休業の生活について」で夜のスマホの使用時間について提言をした。 ○生活リズムや人間関係で気持ちが整わず、学習に向かうことが難しい生徒がまだまだいる状況。	B	○睡眠に関するアンケートをとり、結果を受けて睡眠が学習や生活に与える影響を授業等を通して伝えていったり、結果を家庭へ文書配布したりすることで保護者への睡眠時間確保に向けての意識を高めてもらう。
		○昨年度は、挨拶や返事、言葉遣いについて、８～９割の生徒が意識して取り組んでいた。継続して指導し、定着につなげていく。 ○生徒は自分の課題に意識して取り組んでいる。将来の進路実現に向けた課題解決策として、周りの生徒と協力したり、教師による指導・支援を受け入れたりすることが必要である。	○生徒同士が互いに認め合い・支え合い・励まし合いをすることを通して、自分の目標に取り組んだり、行動の課題の改善をすることに努めたりする。	○学年集会で生徒が主体的に活動したり、特別活動の時間でグループワークなどの生徒同士での活動を設ける。 ○基本的生活習慣や規律、学習態度など、学級内で振り返る機会を設定する。 ○「できる」「わかる」授業の実践を通して、生徒同士が伝え合ったり教え合ったりする授業づくりを行う。 ○生徒の活躍やがんばりを、学年通信や学校ホームページなどで紹介する。	○生徒アンケートを行ったところ、９割の生徒が、本校で学ぶことで、わかるようになったことやできるようになったことが増えたと回答しており、生徒自身が教育的効果を実感できていることがわかった。その中で、「困っているときに声をかけ合っている」「授業で友達と勉強を教え合ったり話し合ったりしている」の問いに全体の８割が肯定的評価をしている。しかし、想起される場面の言及率は全体の４割にとどまっているので、後期に向けて、他者への意識をもち、言語化できるような取り組みをしていく必要がある。	B	○「生徒同士の個々の力をつないでいく」「個々の力を合わせる」「他者と自分を比較したり、他者からの評価を受けながら自分の力をつけていく」といった取り組みを行う。 ○学習の振り返り場面や個別面談などで、自分自身の目標達成についてだけでなく、友達との学びでできたことやそのときの気持ちを言葉で表す機会を設ける。
		○生徒の災害や防災に関する意識や判断力は高くなく、その向上についての取り組みが求められる。	○年度当初に比べて災害や防災に関して意識することが増えている。	○防災教育講演会や避難訓練の中で防災意識向上のための取り組みを行う。 ○「デジ防災」を活用した学習活動を実施する。	○防災教育講演会や避難訓練、救命救急講習会等の活動を通して徐々に防災意識が高まりつつある。	B	○被災地視察に行った生徒の報告会や地震避難訓練を行い、防災意識の向上を図る。 ○デジ防災の活用を促す。
		○昨年度から行っている「認め合いの木」の取り組みで、場面に応じて自主的により良い行動をとることができる舎生も何名か見られるようになってきているが、全体的な数は多くない。	○寄宿舎の生活の中で、周囲の状況を見ながら、自主的に行動している。	○「認め合いの木」の取り組みを通して、より良い行動を全体に周知することで、舎生自身がいろいろな場面でより良い行動ができるように促し、その定着を図る。	○「認め合いの木」には多くの「良い行動」が掲示してあり、自主的な行動が増えていることを示している。「認め合いの木」の内容を読んだことのある舎生が７割強である。	B	○「認め合いの木」に意識がいきにくい舎生がいるので、朝会などで内容の紹介を続けていく。褒められることを恥ずかしく思う舎生については、配慮をしつつ、良い行動が認められる喜びを感じられるよう伝え、それが定着するように図る。
	○学校運営協議会の活用 ・地域連携・企業連携の充実	○昨年度、２回の会議を実施した。会議以外にも卒業式に来賓として参加していただき、より学校の様子を知っていただくことができた。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受け、本校の魅力発信へとつなげていく。	○引き続き地域や企業の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。	○第１回学校運営協議会では中学生の保護者に向けての魅力発信についての意見をいただき、生徒・教職員から発信できるように計画を進めている。	B	○第２回学校運営協議会は専門教科成果発表会を参観いただき、講評をいただくこととしている。
		○昨年度は、企業を対象とした学校公開「企業参観日」が一度しか実施できなかった。 ○企業とのつながりを保つ工夫が不十分である。	○年間を通して実習先の１０～１５％の企業が新規開拓企業である。 ○企業参観日を年間１０回以上実施し、現場実習の受け入れに繋がっている。	○関係機関との連携やデータベースの活用を通して、積極的に企業新規開拓を行う。 ○企業参観日の案内を積極的に行う。 ○本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行ったり、生徒とのマッチングに繋げるために企業のニーズを吸い上げたりする。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。	○第１回現場実習の新規開拓企業は26.9％で、目標を大幅に上回った。 ○企業参観日は現在４回実施しており、企業のニーズを把握し、本校の取り組みや障がい者雇用についての情報発信ができた。	B	○就労促進セミナーを実施し、更なる情報発信と啓発を行う。 ○企業との連携を進めるために、学校運営協議会で引き続き就労の視点を含めた情報共有や協議をする。

様式２							
地域社会とつながりながら生きる力の育成	○自治的活動の推進 ～生徒が考え，社会をつくる～	○学校生活に対して自分なりの考えを持っている生徒が多く、前年度の生徒アンケートでは全体の３割が学校生活を楽しくないと答えている。 ○気持ちの乱れにより規範意識が低い生徒がいる。 ○自治的活動に関心を持ち、自主的に活動に取り組もうとする生徒が少ない。	○よりよい学校生活を築くために生徒が自発的に問題点や課題等を見いだし、長所や短所を踏まえて改善策を考えている。	○生徒会執行部を中心に生徒の意見を集約・整理・問題提起等する活動を通して、社会づくりの主体であることを実感させる。 ○生徒総会を年間２回実施し、学校生活の問題点や課題等を考え、長所や短所を踏まえて話し合う場を設ける。	○学校生活をより良くするためにはどうしたらよいのかを生徒が話し合う活動を取り入れた。 ○意見のまとめ方や提案する方法を理解できていないために、生徒が自主的に活動できていないことがあった。	B	○生徒総会以外の場面で生徒の意見を集約する方法を考え、実施する。 ○生徒総会等で出てきた意見を生徒会執行部を中心に整理し、正しい手順で提案するといった活動を取り入れる。
		○琴海会三役は、指示されたことは協力的にできるが、主体的に行事や活動を企画・運営していくところまでは達していない。また、他の舎生は行事の運営に関わる場面は少なく、課題となっている。	○琴海会三役及び他舎生が自分の役割を理解し、行事や活動の企画・運営に関わっている。	○行事や活動ごとに実行委員や係を設け、舎生が役割を持って取り組めるようにする。また、アイデアを出し合いながら可能な限り自分たちで企画し、運営に関わっていけるよう支援をする。	○行事や活動で係を設けたこと及び部屋会の方法を変更したことで、少しずつではあるがアイデアを出し合い、主体的に運営に関わる舎生が増えてきた。月目標も以前は三役が検討した案がそのまま目標となっていたが、リーダー会で部屋会案を基に話し合うことで、多数の舎生が積極的に関わることができるようになってきた。	B	○引き続き、行事や活動ごとで舎生それぞれが役割をもち、企画、運営に関わっていけるよう支援していく。
		○例年に比べ、部活動に参加する生徒が減少している。 ○部活動で運動したり文化活動をしたりしたいと考える生徒も一定数いるが、JRでの帰宅時間の関係で参加できない生徒が多い。 ○イベントや大会に参加する生徒が増加してきた。	○休日や余暇の時間に、運動をしたり文化活動をしたりする生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている	○部活動の参加だけでなく、休日などの余暇時間を上手に使えるようにするため、イベントや大会の情報を掲示する。 ○部長会の活性化を進め、生徒が主体的に活動できるようにする。 ○地域のスポーツクラブや文化活動を紹介し、参加できる生徒を増やす。	○１年生の部活動参加が減少しているが、全体的に大会等のイベントに参加する生徒が増えてきた。 ○地域のクラブやスポーツ教室に参加する生徒が増加した。 ○参加する種目が限定されており、生徒のニーズには応えられていない。 ○文化活動の場が少ない。	B	○大会等の活動報告をして、生徒の興味や関心を高める。 ○引き続き、スポーツ教室の案内や呼びかけをしていく。 ○後期に部長会を開催し、自主的な活動を促す。
	○啓発・広報活動の工夫 （保護者、地域住民、小中学校、企業に開く）	○Facebookや学校ホームページのコンテンツの内容や配置などを新しい視点で更新し、学校生活や寄宿舎生活の様子がわかるようにしている。対面による説明会や広報活動の持ち方を工夫しようとしている。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより、YouTube等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 ○地域や学校への公開や広報活動を拡大していく方向で進めていく。	○学校の魅力発信を意識して、閲覧者に必要な情報が盛り込まれている学校ホームページやFacebookを随時更新している。 ○地域や学校への公開や広報活動を現状に合わせて拡大していく方向で進めている。	B	○様々な媒体による学校の啓発・広報活動の内容充実や魅力アップを意識し取り組んでいく。
		○体験入学希望者の減少が見られ、出願者が減少している。 ○コロナ禍で発信の仕方が限られたこともあり、職業的・社会的自立を見据えた進路選択につなげていけるだけの具体的情報が、地域の学校に十分に伝わっていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や疑問に応えたりするための工夫ができている。	○将来の職業生活と本校の教育についてより関心を持ってもらうための工夫をする。 ・学校見学 ・生徒主体の情報提供の場等 ○オープンスクールの実施。 ○県や地教委等と連携し、地域へのPR活動の実施。	○YouTube配信による、本校の教育及び職業的・社会的自立に向けた情報提供の実施。 ○本年度の地域支援活動計画について、県と情報共有し、周辺市町にも紹介。 ○ワークショップや講演会講師としての啓発及び地域支援活動。 ○オープンスクールの延期。	B	○地域のニーズに応えられるよう、引き続き、県や地教委等と連携していく。 ○生徒の姿や活動を通して、教育の成果を示せるように、内容を工夫する。 ○オープンスクールの計画を再調整し、実施する。
働きやすい職場・成長できる組織作り	○校内研修・授業研究の工夫、（人材育成をベースとした業務改善、時間外業務縮減等）	○時間外業務の縮減が課題となっている。（年間３６０時間を超える職員が数名いる）	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。（月４５時間・年間３６０時間内）	○継続して衛生委員会で時間外業務等の状況を確認し、年間を見通して業務の進め方等を工夫し、時間外業務の縮減につなげる。 ○各行事・活動等の計画・実施について、ねらいや状況に応じて見直しを行い、業務改善を図る。	○衛生委員会において、時間外業務や健康状況等の確認や検討を行い、必要に応じて声かけ等を行っている。 ○衛生委員会で提案のあった早番・遅番業務の見直しを行い、夏季休業明けより実施している。	B	○定期的に給与・勤怠システムを各自が確認し実態把握する時間を設定し、年間を見通した業務の進め方となるように引き続き声かけ等を行う。 ○今後も業務の見直し、改善を図っていく。
		支援部・教務部 （再掲）					

評価基準　A:十分達成（100%）　B:概ね達成（80%程度）　C:変化の兆し（60%程度）　D:まだ不十分（40%程度）　E:目標・方策の見直し（30%以下）